

# 投票がつくる

主筆  
前田浩智

拜啓 有権者の皆さん。あす27日は衆院選の投票日です。いつもにも増して選択に頭を悩ませているのではないのでしょうか。

大きな要因は石破茂首相にあります。

岸田文雄内閣の支持率が危険水域から抜け出せず、自民党は旧態依然とした、「党の表紙」を替える疑似政権交代で乗り切ることになりました。

石破氏は「党内野党」で過ごしました。安倍晋三元首相から徹底して遠ざけられ、裏金問題の震源地となった旧安倍派のにおいはし

ません。それが幸いしました。過去4度挑戦してびくともしなかつた首相へのドアが開きました。

石破氏は時に「空気が読めない」などと批判されながらも、正論や筋論を直言するのが魅力です。しかし、首相になったとたん、空気に敏感になりました。

アベノミクス批判は控え、解散前に両院予算委員会を開くという半ば約束もほごにしました。一時は「裏金議員」を原則公認する方向で調整を進めました。

こうなるとは表紙を替えた意味はなく、疑似の政権交代にもなり

ません。自民党と距離を置く方も多いでしょう。不満は選挙情勢調査に見て取れます。

それでは、野党はどうでしょうか。

立憲民主党は首相経験者の野田佳彦代表を「選挙の顔」に据え、安定感の演出を図りました。リベラル色を薄め、自民党を離れた保守層や無党派層の受け皿になる構えです。

主張の中心は政治とカネの問題です。異論はありません。ただ、政権担当能力を示すのなら、各政策をもっと財源の裏付けをもって語るべきです。民主党政権の失敗を克服するのであればなおさらでしょう。

バラマキ色は他の野党にも感じます。迷いは深まり疲れます。投票

票をやめるのは手っ取り早い手に思えるのかもしれませんが、しかし、棄権は「現状の追認」にほかなりません。

たとえば、時間軸を置いて投票先を考えるのも悪くありません。今は納得できなくても、自民党は顔ぶれが変わり、石破氏が個性を取り戻す余地が生まれるのかもしれない。保守層にウイングを広げた野田氏が政治に緊張感をもたらす可能性もあります。期待投票です。誤ったと思えば、次にやり直せばいいのです。

自分たちの声が届かないと思うと、議会制民主主義をあきらめ強権的な指導者に走ることがあります。悪夢の兆しが世界に広がります。政治をつくるのは私たちです。投票こそが未来を変えます。